

科目ナンバー	HSS-1-003-j			科目名	バドミントン実技		
教員名	岸 一弘			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	1
概要	バドミントンの男子一流プレイヤーが放つスマッシュの初速スピードは時速400kmを超えるといわれるようになってきました。もともとこのスポーツは、世界各地でおこなわれていた羽根突き遊びが進化・発展して、現在の形態になったと考えられます。現存する資料によりますと、ネットを張らない状態で互いに打ち合った記録が2117回ということです。実に優雅でのんびりしていた時代かが推察されます。ただし、この記録は庶民ではなく上流階級の人たちが娯楽として楽しんだもののようです。現在では他のスポーツと同様に、バドミントンも生涯にわたって楽しむことが求められています。スポーツの楽しみ方には大きく分けると4つあると考えられます。それはおこなうこと、見ること、ささえること、そしてつくることです。この授業では、これらの楽しみ方にも言及したいと思います。小学校学習指導要領解説体育編が2017年6月に公表されました。そのなかで、中学年及び高学年のネット型ゲームとネット型において、初めてバドミントンに関する例示がありました。そのため、小学校体育科でもバドミントンに関する運動遊びの授業ができるようになりました。本授業では、これらのことにも対応していきたいと考えています。						
到達目標	バドミントンの歴史(ルールの変遷を含む)について理解するとともに、基礎的技術や審判法の習得を通して試合ができるようにしたい。また、これらの学びの成果を小学校の体育授業やクラブ活動及び中学・高等学校の部活動等における指導場面でも生かせるようになってほしい。						
「共愛12の力」との対応							
識見	自律する力			コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識		自己を理解する力		伝え合う力		分析し、思考する力	
共生のための態度	○	自己を抑制する力	○	協働する力	○	構想し、実行する力	
グローバル・マインド		主体性	○	関係を構築する力	○	実践的スキル	○
教授法及び課題のフィードバック方法	15回のうち、前半の基礎的技術の習得段階では担当者主導によって個別または班に分かれての練習をおこないます。1週間に1回(90分間)の実技では、運動技術の習得は困難を伴います。技能レベルに応じてスキルアップできるようなプログラムを考えていますが、学習者自身が運動感覚を総動員して上達したいという気持ちで取り組むことも求められます。後半は学習者主体で、簡易なゲームから本格的な対抗戦まで段階的に進めていきます。また適宜、習熟度把握のためのスキルテストをおこないます。各課題に対しては、適宜総評を伝えます。						
アクティブラーニング	○	サービスマーケティング		課題解決型学修	○		
受講条件 前提科目	レクリエーションとしてのバドミントン実践を希望している方には不向きです。この授業は3年生以上を対象にします。大学卒業後、学校や地域及び職場等でバドミントンを引き続き実践し、その普及に努められそうな方を希望します。ただし、バドミントンの競技経験者よりも未経験者で熱意のある方を優先します(中学・高校や大学でのバドミントン部経験者は遠慮していただいています)。施設用具の都合上、36名を上限とします(希望者多数の場合は抽選とします)。2回目以降は運動着、体育館シューズが必要です。ラケットは授業用のものがあります。						
アセスメントポリシー及び評価方法	平常点・授業中の活動の様子(60%)、スキルテストの結果(20%)、個人戦(シングルス、ダブルス)の結果(20%)を総合的に評価します。なお、全授業回数の3分の1以上の欠席者は不合格にします。運動課題への取り組みでは、グループワーク時において、コミュニケーションスキルとしての関係を構築する力や協働する力、自己を抑制する力ならびに共生のための態度を総合的に評価します。また、運動技能の習熟過程における諸問題に主体的に取り組める実践的スキルを評価します。						
教材	指定図書 新刊(2019年2月発刊) 岸一弘著『バドミントンの理論と実技―初歩から基本技術の指導まで―』を直接販売します。						
参考図書	特になし						
内容・スケジュール							
1週目							
授業学修内容	本授業について説明する。体育館に集合(希望者が多い場合は抽選あり)シラバス授業						
授業外学修内容	新聞のスポーツ欄に目を通しておくこと。					時間数	1
2週目							
授業学修内容	基礎的技術の学修をする。ラケットの握り方、他。(講義もあり:バドミントンの歴史について)						
授業外学修内							

容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
3週目			
授業学修内容	基礎的技術の学修をする。ラケットとシャトルに慣れる段階。(講義もあり:バドミントンの特性について)		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
4週目			
授業学修内容	基礎的技術の学修をする。ストロークと素振りについて。		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
5週目			
授業学修内容	これまでの学修成果をみる。試行する(スキルテスト1、簡易ゲーム)。		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
6週目			
授業学修内容	基礎的技術の学修をする。ストローク・ショットについて。		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
7週目			
授業学修内容	基礎的技術の学修をする。トラベリング技術について。		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
8週目			
授業学修内容	これまでの学修成果をみる 試行する(スキルテスト2、簡易ゲーム)		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	1
9週目			
授業学修内容	試合の進め方と審判法について学修する。		
授業外学修内容	『バドミントンの理論と実技』の指定箇所を読んでおくこと。	時間数	2
10週目			
授業学修内容	個人戦(シングルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	本日の対戦結果を振り返り、次の試合の作戦について考えておくこと。	時間数	1
11週目			
授業学修内容	個人戦(シングルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	本日の対戦結果を振り返り、次の試合の作戦について考えておくこと。	時間数	1
12週目			
授業学修内容	個人戦(シングルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	本日の対戦結果を振り返り、次の試合の作戦について考えておくこと。	時間数	1
13週目			
授業学修内容	個人戦(ダブルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	本日の対戦結果を振り返り、次の試合の作戦について考えておくこと。	時間数	1
14週目			
授業学修内容	個人戦(ダブルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	本日の対戦結果を振り返り、次の試合の作戦について考えておくこと。	時間数	1
15週目			

授業学修内容	個人戦(ダブルス)を楽しむ。		
授業外学修内容	これまでの学修成果を今後の諸活動に生かすための方策についてまとめておくこと。	時間数	1
上記の授業外学修時間の合計			16
その他に必要な自習時間			29

Number	HSS-1-003-j	Subject	Badminton		
Name	岸 一弘 (Kishi Kazuhiro)	Year and semester	S Second semester for 2020	Credits	1
Course outline	<p>Nowadays, it is said that the initial speed of a smash from a first-class male badminton player can exceed 400 km per hour. Originally, this sport is believed to have evolved and developed into its modern shape from battledore, a game that was played all over the world. According to existing materials, the record for the number of time players could keep a shuttlecock in the air without a net is 2,117 times. It must have been an elegant, relaxed era. However, this record is not from the common people. It appears to have been from upper-class people enjoying the game as recreation. Currently, just like other sports, people want to enjoy badminton their whole life. The ways to enjoy sports can be broadly categorized into the following four. They are playing, watching, supporting, and making. In this course, we will also touch on these ways of enjoying sports.?</p>				